

第1学年 算数科学習指導案

第2学年 算数科学習指導案

日 時 平成17年9月28日(水) 5校時
児 童 第1学年 男子1名 女子1名 計2名
第2学年 男子3名 女子2名 計5名
指導者 加藤 浩美

1 単元名 たしざん (東京書籍1年)

2 単元について

第1学年における学習指導要領「A 数と計算」の加法・減法についての目標は、「(1) 加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。本単元では、それを受けて「1位数同士の繰り上がりのある加法計算のしかたを理解し、それを用いることができる。」ことを主目標とする。

本単元は、次の3つの小単元から構成されている。

第1小単元「9+4のけいさん」	1位数+1位数で繰り上がりのある計算(加数分解)のしかたを理解する。
第2小単元「3+9のけいさん」	1位数+1位数で繰り上がりのある計算(被加数分解)のしかたを理解する。
第3小単元「かあどれんしゅう」	加法の計算能力を高める。

本単元の基礎・基本としておさえておきたい点として、「数の構成」、「10に対する補数」、「加数分解による計算のしかた」、「被加数分解による計算のしかた」の4点があげられる。本単元を支える主な既習事項としてあげられるものは、大きく次の4点であるととらえた。

- 加法の意味と記号
- 繰り上がりの無い10以内の加法
- 10+3などの計算(20までの数の構成)
- 簡単な3口の加法、減法と混合

本単元では、繰り上がりの無い場合の加法計算や3口の加法の学習をもとにして、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算について指導する。繰り上がりのある計算はこれがはじめてであり、加法計算の基礎として1学年の重要な内容である。ここで扱う計算は、被加数、加数ともに1位数であるが、繰り上がることを「10といくつ」ととらえるところが要点となる。つまり、10に対する補数の見つけ方(10のつくり方)をどのようにしたらよいかという判断のしかたがポイントとなる。計算方法として、加数分解が一般的であるので、これを第1に取り上げている。しかし、計算の方法は被加数分解も

1 単元名 かけ算(1)「新しい計算をかんがえよう」(東京書籍2年下)

2 単元について

第2学年における学習指導要領「A 数と計算」のかけ算についての目標は、「(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。乗法の意味を理解し、その計算の仕方を考え、用いることができる。」である。本単元では、それを受けて「乗法の意味について理解し、それを用いることができる。」ことを主目標とする。

本単元は、次の4つの小単元から構成されている。

第1小単元「かけ算」	かけ算の意味を理解する。
第2小単元「5の段、2の段の九九」	5の段、2の段の構成を理解し、習熟を図る。
第3小単元「3の段、4の段の九九」	3の段、4の段の構成を理解し、習熟を図る。
第4小単元「まとめ」	学習内容に習熟する。

本単元の基礎・基本としておさえておきたい点として、「かけ算の意味」、「積の求め方」、「乗数と積の考察」、「5、2、3、4の段の九九の構成、記憶の適用」の4点があげられる。

本単元を支える主な既習事項として挙げられるものは、大きく次の2点であるととらえた。

- 2ずつ、5ずつまとめてかぞえること
- 数の構成に基づく数え方

本単元では、今までの学習をさらに発展させ、単位となる数量aをもとにして、aのn個分が全体の数量mとなることを明確にとらえさせ、これを $a \times n = m$ と表現する活動へと導いていく。5の段の九九、2の段の九九、3の段の九九、4の段の九九の順に学習し、その記憶と適用を図る。乗法の意味の理解においては、「図的なイメージ」→「活動」→「式」と関連付けて指導していく。5の段の九九、2の段の九九の構成では、第1小単元で学習した乗法の意味や積の求め方の理解について反復的な学習を行い、乗法の理解を深めていきたい。5の段の九九、2の段の九九の答えがそろったところで見直しを行い、答えが被乗数分ずつ増えることをおさえさせたい。3の段の九九、4の段の九九では、乗数が1増えると積は被乗数分だけ増えることを具体的な事実や操作と結びつけて理解させたい。さらに乗法の意味や答えを覚えることでいちいち累加する必要がなくなるという九九の有用性についても気づかせ、暗記へと進みたい。

考えられるので、10のつくり方に弾力性を持たせ、児童が考えやすい方法を用いることができるようにしたい。なお、計算方法の理解には、算数ブロックなどを用いて、具体的に操作させるようにしたい。また、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算は加法計算の基礎となる内容なので、カードによる練習やゲーム遊びにより習熟を図るようにしたい。

なお、この学習は「たしざんとひきざん」、2年生の「何十の計算」へと発展していく。

3 児童について

(1) 情意面の実態

7月に行った「算数科の意識調査」においては、算数や計算に対して＋傾向の意識を持っており、ふだんの生活の中で算数は役に立っていると思っている。日常の算数の学習においても、意欲的に参加している。

具体物や半具体物の操作についても、最初戸惑いが見られたが、今では、指定された数のブロックを手際よく用意できるようになり、楽しみながら学習に取り組んでいる。しかし、「どんなべんきょうのすすめかたがすきですか」の問いに対しては、「ひとりでどんだんもんだいをといていく」と「せんせいといっしょにとく」の意識の違いがある。

(2) 認知面の実態

和が10以内の加法の文章題については、文章から立式ができる。10までの数の合成・分解、計算においては、暗算で求めることができる児童と指やブロックをつかって答えを求めている児童との理解の差と処理の差がみられる。

そこで、本単元では個別指導を要する児童1名に対しては、直接指導の際の教師の支援に力を入れ、課題を明確にとらえさせた上で学習に取り組ませていく。また、形成的評価を生かしながら、必要に応じて補充指導を行い、学習内容を十分に理解させていきたい。

なお、この学習は、次単元の「かけざん(2)」、3年の「かけ算」、「わり算」の学習へと発展していく。

3 児童について

(1) 情意面の実態

7月に実施した「算数科にかかわる意識調査」の結果をみると、「算数の勉強がすきですか」の設問に対して、全員が「とても好き」と回答している。他の11項目においても、ほとんど＋傾向の回答をしている。「あなたは、こたえをかながえるときに、いままでになつたことをつかっていますか」では、「よくつかっている」が3名、「つかっている」が2名、「じぶんのちからでとくことがすきですか」では、「とてもすき」が4名、「すき」が1名で学習の進め方についても理解し、取り組もうとしている。しかし、前回の調査と比べると「とても好き」から「好き」に変わっている項目もあり、苦手意識もでてきていると思われる。

(2) 認知面の実態

昨年度に実施したCRTでは、学級得点率90.4(全国比105)であった。概ね満足な結果を得ることができた。

レディネステストの結果を見ると、5ずつまとめる問題、10とび・5とび・2とびの数の系列の問題はおおむね満足な結果を得た。「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して答えを求める問題では、全員が数えて答えを求めていた。未学習の問題は2名が無答であった。「知っているかけ算をかく」問題では、上に兄がいる児童3名がある程度書くことができた。

そこで、本単元では、九九の暗記だけでなく、九九の意味を確実に理解することができるように、絵や具体物・アレイ図をつかって具体的な事実や操作と結びつけながら、大事に扱っていききたい。

(3) 個別の実態と指導の方向性

< 1 日常の実態 2 レディネスの実態 3 指導の方向性 >

- 1 ○計算が大好きで、意欲的に取り組む。
○理解力があり、問題の処理能力も高い。
○理解も早く、発言内容も正確である。
- 2 レディネステスト正答率100%
- 3 ☆ブロック操作だけでなく、さくらんぼ計算の発表ができるように学習の援助をする。
☆繰り上がりのある計算のしかたについて理解を深めさせ、学び合いの場面で発言をいかせるようにする。

- 1 ○意欲的に発言している。
○加法のブロック操作について理解している。
●数の合成・分解を、半具体物を用いて行っている。
●友達の正答に頼って、問題を処理しようとする場面が見られる。
- 2 レディネステスト75%
○文章題は、時間はかかったが、立式し正答を求めることが出来た。
●6, 8, 9の分解でつまづく傾向がある。
- 3 ☆1から10までの合成・分解が定着できるように継続して指導していく。
☆各段階でのつまづきが予想されるので、細かく補充指導に取り組む。

(3) 個別の実態と指導の方向性

< 1 日常の実態 2 レディネスの実態 3 指導の方向性 >

- 1 ●時々、集中力が無くなる。
○理解力があり、問題の処理も速い
●ケアレスミスがあり、丁寧に欠ける面がある。
- 2 レディネステスト100%
- 3 ☆飽きやすい面があるので、状況に合わせて声がけをする。
☆速さだけでなく、正確さを求める声かけをする。
☆状況に応じて、発展的な問題にも取り組ませる。

- 1 ○意欲的に発言しようとする姿が見られるようになってきた。
○基礎・基本が身につけている。
○理解力があり、問題の処理能力も高い。
- 2 レディネステスト100%
- 3 ☆かけ算九九の意味や理解について、考え方を発表できるように援助していく。

- 1 ○意味理解に時間がかかるところも見られるが、問題処理に一生懸命取り組んでいる。
●計算は速くできるが、ミスも多少見られる。
- 2 レディネステスト90%
●「1あたりの数」「いくつ分」に着目して総数を求める問題で数え間違いをしていた。
- 3 ☆問題把握や適用問題の場面では問題の意味を十分に把握できているか、意図的に指名したり問い掛けたりして学習を進めていく。

- 1 ○意欲的に発言しようとする。
●時々、集中力が無くなる。
●問題を処理したり、理解したりすることに大変時間がかかることがある。
- 2 レディネステスト85%
●5ずつまとめることはできたが、「あつまり」の意味がわからず、総数をかいた。
●2とびの数の系列で8の次が無答であった。
- 3 ☆誤った問題については、後で補充指導を行いたい。
☆各段階でのつまづきが予想されるので学習状況を随時評価し、声がけをする。

- 1 ○間違いを気にするところが少しずつ減ってきている。
○理解力があり、問題の処理も速い。
●問題を早とちりし、間違うことも時々ある。
- 2 レディネステスト100%
- 3 ☆題意を正確につかんでいるか評価し、滞っている時は指導する。
☆状況に応じて、発展的な問題にも取り組ませ、考え方を発表できるように援助する。

4 単元仮説

(1) 仮説・1を受けて

- ① 診断的評価を生かして、児童の学習状況を想定し、つまずきそうな児童への指導の比重を高めることにより、個に応じた指導を充実させることができるであろう。

(2) 仮説・2を受けて

- ① 理解を深める方法としてブロック操作の活動を取り入れ、定着を図るとともに、学習状況を形成的に評価するために、小わたりする学習の展開を工夫すれば、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。

5 単元の目標

- ◎1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算のしかたを理解し、それをを用いることができる。

[関心・意欲・態度] ・数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算のしかたを進んで考えようとする。

[数学的な考え方] ・20までの数の構成や10の補数に着目して計算のしかたを考える

[表現・処理] ・1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算ができる。

[知識・理解] ・1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算のしかたを理解する。

4 単元仮説

(1) 仮説・1を受けて

- ① 診断的評価を生かして、つまずきが予想される児童への指導の比重を高めることにより、個に応じた指導を充実させることができるであろう。

(2) 仮説・2を受けて

- ① 絵やアレイ図を用いて答えを具体的に確認し、理解の定着を図るとともに、学習状況を形成的に評価するために、小わたりする学習の展開を工夫すれば、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。

5 単元の目標

- ◎乗法の意味について理解し、それをを用いることができる。

[関心・意欲・態度] ・乗法に関心を持ち、ものの個数をとらえる時に進んで乗法を用いようとする。

[数学的な考え方] ・乗法九九が用いられる場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」とらえて全体の個数の求め方について考える。

[表現・処理] ・乗法が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。
・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。

[知識・理解] ・乗法が用いられる場合を理解する。・乗法(5, 2, 3, 4の段)の構成のしかたを理解する。

6 評価計画 (12時間扱い)

小単元	時間	大切にしたい 基礎・基本	評価項目			
			関心・意欲・ 態度	数学的な 考え方	表現・処理	知識・理解
ととのえる (1)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数の合成・分解(合併・増加) ・10以内の加法の計算 ・$10+3$の加法の計算 ・3口の加法の計算 			10までの合成・分解が正確にできる。	本単元のレディネスとなる既習事項を理解している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・加法の意味 ・加数分解による計算のしかた 	数の合成や10の補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを考へようとしている。	繰り上がりのあるたし算のしかたについて10のまとまりについて着目して考えている。		
9+4のけいさん (4)	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・加数分解による計算 			加数分解による計算が正確にできる。	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくればよいことを理解している。

6 評価計画 (25時間扱い)

小単元	時間	大切にしたい 基礎・基本	評価項目			
			関心・意欲 態度	数学的な 考え方	表現・処理	知識・理解
かけ算 (7)	ととのえる (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・2ずつまとめること ・数の構成に基づく数の数え方 			ひとまとまりの数とまとまりの数からものの総数を求めることができる。	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「1つ分の大きさ」「いくつ分」ととらえること 	乗法に関心を持ち、ものの個数をとらえる時に進んで乗法を用いようとする。	数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえている。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の意味 ・用語「かけ算」 			乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。	数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の意味 			乗法の場面ととらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面を表現したりすることができる。	

	1	・加数分解による計算			加数分解による計算が正確にできる。	被加数が7の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。
3 + 9のけいさん(2)	2	・被加数分解による計算のしかた		被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して考えている。		唱えながらブロック操作することを通して、被加数分解による計算の仕方を理解している。
カードのれんしゅう(5)	5	・本単元の学習内容			繰り上がりのある1位数どうしの加法計算ができる。	

	1	・乗法の答えは被乗数の数だけ累加して求められること。				乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。
	1	・乗法の意味	学習内容を適切に活用し、活動に取り組もうとしている。			
5のだん・2のだんの九九	1	・5の段の九九の構成				5の段の九九の構成のしかたを理解している。
	2	・5の段の九九の記憶と適用				5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。
	1 本時	・2の段の九九の構成		5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の九九の構成を考えている。		2の段の九九の構成のしかたを理解している。
(6)	2	・2の段の九九の記憶と適用				2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。

3 の だ ん ・ 4 の だ ん の 九 九 (7)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3の段の九九の構成 ・ 用語「かけられる数」「かける数」 		乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3の段の九九の記憶と適用 			3の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4の段の九九の構成 		乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4の段の九九の記憶と適用 			4の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。	



(2) 本時の学習

	1	・ 5, 2, 3, 4の段の理解	乗法を用いる場面をとらえたり, ことばや式で表現したりしようとしている。	乗法の場面としてとらえることができる場面を見つけ, 式に表したり, 乗法の式を読んだりすることを通して, 乗法の式の意味について考えている。		
まとめ (4)	2	・ 既習の学習内容			既習事項を生かして問題(力をつけよう)を解決できる。	
	2	・ 既習の学習内容				既習事項を生かして問題(たしかめよう)を理解している。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

[表現・処理] ・加数分解による計算が正確にできる。

[知識・理解] ・被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解する。

(2) 本時の評価・具体的評価規準

	A	B	C (具体的な手だて)
表現・処理	加数分解による計算が速く正確にできる。	加数分解による計算が正確にできる。	被加数に着目させて、教師といっしょに加数分解による計算のしかたを唱えることができるようにする。
知識・理解	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解し、さらに計算の手順について説明することができる。	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことをブロックで操作したり、さくらんぼ計算をしたりすることによってとらえられるようにする。

(3) 単元仮説に関わる本時の具体的な手だて

①仮説・1にかかわって

ア 診断的評価を生かして、つまずきが予想される児童に対し、ブロック操作で10のまとまりをいっしょにつくり、前時の繰り上がりのあるたし算の方法を想起させる。

②仮説・2にかかわって

ア 「やってみる段階」で学習の手引きを配布して、自力解決の手順を理解させ、小わりによって学習状況を形成的に評価し、必要に応じて補充指導する。

(4) 個に応じた指導の方向性 (別紙にて配布)

7 本時の指導

(1) 本時の目標

[数学的な考え方] ・5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の九九の構成を考える。

[知識・理解] ・2の段の九九の構成のしかたを理解する。

(2) 本時の評価・具体的評価規準

	A	B	C (具体的な手だて)
数学的な考え方	5の段の九九と、2の段の九九の構成の共通点を見つけ、説明できる。	5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の九九の構成を考えている。	5の段の九九を思い出させながら、アレイ図をもとに考えさせるようにする。
知識・理解	2の段の九九の構成を正しく理解し、答えの求め方を説明でき、最後まで九九を完成させることができる。	2の段の九九の構成のしかたを理解している。	おはじきを並べながら、考えることにより、2の段の九九の構成について理解させる。

(3) 単元仮説に関わる本時の具体的な手だて

①仮説・1にかかわって

ア 診断的評価を生かして、つまずきが予想される児童に対し、おはじきや絵をもとに5の段の九九の構成のしかたを想起させる。

②仮説・2にかかわって

ア 「学び合う段階」で2の段の九九を最後まで完成させる学習を小わりを行いながら形成的に評価し、必要に応じて補充指導する。

(4) 個に応じた指導の方向性 (別紙にて配布)


(5) 本時の展開

第1学年

＝直接指導

第2学年

段階	学習活動	◇指導 ★評価	準備物	形態	段階	学習活動	◇指導 ★評価	準備物
とらえる 5	1 問題を把握する。 8 + 3	◇前時の問題と同じところ、ちがうところに気づかせる。	紙板書 ブロック プリント		とらえる	1 前時の学習を想起する。 (1) 復習プリントに取り組む。	◇答えを求めることができない児童に対して、教えあうことを確かめる。 ◇5の段は5ずつ増えていることを確かめて、本時課題へと移る。	プリント
	2 課題を把握する。 8 + 3の けいさんのしかたを かんがえよう。	◇答えの見通しを持たせる。 ・10よりおおきくなりそう。				3 解決の見通しをもたせる。	・ブロック操作をする。 ・さくらんぼ計算をする。 ◇10のまとまりを手がかりにし、ブロック操作で10のまとまりをつくり、10といくつのかたちになることを確かめる。	
やってみる 5	4 自力解決する。 がくしゅうのすすめかた ① けいさんのしかたをいいながらブロックをうごかしてみよう。 ② じぶんでたしかめよう。 ③ ブロックと、ちがうやりかたでけいさんをしてみましょう。 ④ けいさんのしかたをはっぴょうできるようにれんしゅうしましょう。	◇学習の進め方を配付して、自力解決の手順を理解させ、小わりりによって学習状況を形成的に評価し、必要に応じて個別指導する。 ◇①の段階が終わった時点で小わりりし、児童のブロック操作を形成的に評価する。 ◇ブロック操作で解決した児童は、さくらんぼ計算を用いた計算のしかたでも解決できることを想起させ、答えを求めさせる。	学習の進め方 計算のしかたの表 ホワイトボード	10	2 問題を知り、課題を把握する。 1台に 2人ずつのっている 自てん車が 5台あります。 自てん車に のっている人は、みんなで 何人ですか。	◇2人ずつ乗っている自転車の絵から、かけざんの問題であることをつかませる。	紙板書 プリント	
					3 問題解決の見通しを持たせる。	◇2のだんの九九を考えよう。 ・2つつ数えていく。 ・2 + 2 + 2 + 2 + 2 ・絵の人数を数える。 ・おはじきを使う。		

学 び 合 う 13	5 学び合う。	★被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解しているか。 ◇被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことをブロックで操作したり、さくらんぼ計算をしたりすることによってとらえられるようにする。 ◇ブロック操作を実際に行いながら、計算のしかた、答えを発表させる。 ◇さくらんぼ計算を用いた計算のしかた、答えを発表させる。 ◇どちらの方法も、10のまとまりといくつの形で計算していることを理解させる。		や っ て み る 5	4 自力解決をする。 ◇進め方を確認する。 ◇答えが出た児童から、自分の答えの求め方について発表できるように練習させる。	
ま と め る 5	6 課題についてまとめる。 <div data-bbox="150 1006 754 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 10のまとまりをつくり、10といくつ にすると けいさんできる。 </div>	◇学び合いと関連づけてまとめるようにする。	学 び 合 う 25	5 学び合う。 (1) 問題を解決する。	・ $2 \times 5 = 10$ 答え 10人 ◇自分の答えの求め方を発表させる。 ★5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の九九の構成を考えているか。 ◇5の段の九九を思い出させながら、アレイ図をもとに考えさせるようにする。	

ひろげ る 15	7 適用問題に取り組む。	<p>◇8+3の計算のしかたと同じ方法で解決できることを確かめ、問題に取り組ませる。</p> <p>★加数分解による計算が正確にできるか。</p> <p>◇10のまとまりを作ることができない児童には、被加数に着目させて、教師といっしょに加数分解による計算のしかたを唱えることで解決に導く。</p>			(2) 2の段の九九を最後まで完成させる。	<p>◇2人の6台分から9台分までの人数を求めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$2 \times 6 = 12 = 10 + 2$ ・$2 \times 7 = 14 = 12 + 2$ ・$2 \times 8 = 16 = 14 + 2$ ・$2 \times 9 = 18 = 16 + 2$ <p>◇前の九九の答えに2をたせば、答えが求められることに気づかせる。</p> <p>◇構成の手がかりを必要としている児童には、おはじきで数えながら答えを求めさせる。</p> <p>★2の段の九九の構成のしかたを理解しているか。</p>	
				まとめる 3	6 課題についてまとめる。	<p>◇学び合いと関連づけてまとめるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">2のだんの九九は、2ずつふえていく。</div>	
ふりかえる 2	8 ふりかえる。	◆ふりかえりカードに、今日の学習のふりかえりを書く。	ふりかえりカード	ふりかえる 2	7 ふりかえる。	◆ふりかえりカードに、今日の学習のふりかえりを書く。	ふりかえりカード

8+3のけいさんの
しかたをかながえよう。

$$8+3=11$$

けいさんのしかた

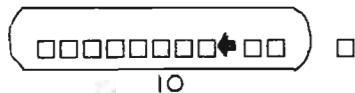
8に2をたして10
10と1で11

10のまとまりをつくり
10といくつにすると
けいさんできます。

がくしゅうの
すすめかた

ブロック

10のまとまりをつくる。



10
8に2をたして10
10と1で11

こたえ 11

さくらんぼけいさん

- ①8はあと2で10
- ②3を2と1にわける
- ③8に2をたして10
- ④10と1で11



1台に2人ずつのっている
自てん車が5台あります。
自てん車にのっている人は
みんなで何人ですか。

2のだんの九九を考えよう

2のだんの九九は
2ずつふえます。

- $2 \times 1 = 2$
- $2 \times 2 = 4 \dots 2+2$
- $2 \times 3 = 6 \dots 2+2+2$
- $2 \times 4 = 8 \dots 2+2+2+2$
- $2 \times 5 = 10 \dots 2+2+2+2+2$
- $2 \times 6 = 12 \dots 10+2$
- $2 \times 7 = 14 \dots 12+2$
- $2 \times 8 = 16 \dots 14+2$
- $2 \times 9 = 18 \dots 16+2$

自転車の絵

しき

$$2 \times 5 = 10$$

答え 10人